

彼らはなぜ屋台で食べているの
だろうという疑問があったの
で、数時間ここに滞在し、彼ら
と一緒に食べてみて、彼らの表
情を見て、話を聞いてみた。ほ
とんどの人の反応は、低価格で
あること、そして簡単な食事と
しては味がいいとのことだった。



吳山広場の小吃文化

一方で小吃料理から出た生
ごみを処理するのに奔走している姿も見えた。全部食べ
きることなく、少し残していた姿が多く見られたが、こ
れは中国人が料理を消費する1つの習慣を確認すること
ができる機会になった。近現代化以降の食生活は、急激
に変化しながら、世界的に生ごみ処理の問題が発生し、
生ゴミをどのように処分するかの問題で悩んでいる。そ
して消費意識の教育、社会運動など、さまざまな角度か
ら改善点が要求されている。このような問題は中国も同
じ状況にある。お客を招待して食事を持て成す際には、

お客が食べ残すくらいの
量の食事を提供すること
がマナーとして知られて
いる中国では元より生ご
みに関して寛大な印象が
あった。



家庭食

中国杭州における食生
活の変化はどこでも簡単に見ることができる。お茶中心
の飲料文化は路上でテイクアウトのコーヒー文化にとっ
て変わられ、和食、韓食などの多国籍料理店などではそ
のような変化像がよくみられる。近現代化以降、文化開
放され、フランチャイズ店やファストフード店の登場で
多様化する食生活の中に共存する彼らの伝統文化、また
多くの人口が消費する食糧とそれに伴う生ごみが社会的
問題化されていること、このような風景が中国における
食生活の変化の一断面を見せてくれる一例として、今後
の食生活の研究において多くの示唆を残してくれた派遣
研究であった。

カナダの多元文化及び日系人の移民

于 洋

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



2012年3月8日から非文字資料研究センターの若手
派遣研究者としてカナダのブリティッシュコロンビア大
学アジア学科を訪問し、バンクーバーとスティヴストン
への調査をする機会を頂いた。今回カナダの多元文化と
民俗、特に、移民文化を体験した。さらに、和歌山県の
漁民がスティヴストンへ移民した歴史に注目し、地元伝
統文化と外来の異文化との融合の現状を探ることにし
た。

1 カナダ文化と民俗

カナダには多種類の民族がいるため、多種文化を持つ
国である。原住民を除くと、ほかの人たちはすべて外来
移民であるため、移民の国と言われる。政府は移民に自
分の文化、伝統と言語を維持させたため、この多元文化
はうまく発展した。1945年以来、アジアの日本や中国
などの国からの移民もカナダの多元文化に深く影響を与
えてきた。

カナダの民俗は原住民の民俗伝統とインディアンとエ

スキモー、そしてフランスとイギリスの侵入民族の伝統
という2つの要素を含んでいる。2つの民俗は別々に発
展するが、ある程度相互に影響する。このような民俗研
究の大部分はインディアン、エスキモー、フランス系カ
ナダ人の民話を記録してなされ、残りは英語とゲール語
の民間伝承の分野に及んでいる。カナダの主要な集団の
伝統を反映したものは、1. 先住民（ネイティブインディ
アン、イヌイト）、2. フランス語（カナダ）、3. アング
ロ・カナダ（英語、アイルランド語、スコットランド、
ウェールズ）、4. ほかの民族グループの4つの種類の民
話を含んでいる。20世紀後半以降、カナダの民間伝承は、
世界中の70以上の異なった伝統にそのルーツを持っている。

バンクーバーは北アメリカ第3番目の海港都市であ
る。日系と中国系の移民もあり、地元の伝統文化は日本
文化と中国文化のような外来の異文化を融合している。
例えば市中心のチャイナタウンはカナダの多元文化の代
表的な要素と考えられる。チャイナタウンは、様々な世



代の中国系カナダ人、特に香港からの移民2世が多く、1960年代以降カナダで行われた多文化主義制度のシンボルの1つである。1980年代頃から多くの富裕な香港・台湾系移民がこのエリアに移っており、これとともに中国系の商売店やレストランも増えている。



カナダの多元文化、特に先住民文化と民俗を全面的に展示するのは人類学博物館である。人類学博物館はブリティッシュコロンビア大学の中に1949年に設立された。この博物館の北西沿岸の先住民コレクションは非常に名高く、トーテムポールをはじめ、マスクや生活道具など圧倒的な展示数、収蔵品数を誇る。

2 和歌山県人のスティヴストンへの定住¹

カナダの多元文化を代表するもう1つは、スティヴストンに移民して来た日系人である。日系人の大部分は1890年代から1920年代にかけてカナダへ来て、1905年から1907年にかけて頂点に達した。初期の移民は、ブリティッシュコロンビアで材木業や鉱業、漁業、農業などに従事した。1907年にはハワイからの転航者の急増と日本からの移民が増加したため、バンクーバー暴動が起き、日本人移民の制限のためにレシュエ協定が結ばれた。新移民は年間400名に制限され、すでにカナダに居住している者の妻子、両親は枠外となったため、日本人移民も妻子を呼び寄せて、定住に向かうこととなった。これが反日感情を大きく刺激することになった。1928年までには、日本移民は年間150名にまで制限されてしまった。

和歌山県の移民は日高郡三尾村出身の工野儀兵衛が

1888年にカナダに渡りフレザー河に上る鮭をみて、故郷の人々を呼び寄せたことに始まると言われている。1912年にはカナダにおける日本人人口で和歌山県人が2位を占めるようになる。明治40年代の初めには、バンクーバーやスティヴストンにはすでに各種の日本人の組織ができ、確固たる日本人社会が形成されていた。

スティヴストンの和歌山県人の独立営業者のほとんどは漁業従事者である。当時の日本人漁者はすでに熟練業であり、カナダに帰化してライセンスを取っている者も多く、缶詰会社も白人漁夫やインディアン漁夫よりも優先して使用した。日本人漁師は最初プラーから始め、やがてライセンスを取ってネットマン、そして船持ちへと発展した。漁師の大半は一生漁師であった者が多く、商売人に転向した者は多くはない。スティヴストンの日本人漁者の中には明治末期にはすでにガソリン船を所有する者も出てきていた。しかし大正期に入ると、塩鮭の日本への輸出、バンクーバー島での鯨漁は日本と中国への輸出を行う業者が増えてくる。この時期は和歌山県人の大半はスティヴストンを中心にして漁業をしていた時期であると言える。



今日、和歌山県の漁民の二世、三世の日系人はまだスティヴストンに残っているが、漁業に従事する人は少なくなっている。しかし、日系人がもたらした日本文化はカナダの多元文化へも影響力を失っていないと思われる。

今回は時間の制約もあり、十分な資料を収集することができなかったが、これから、研究を深めていきたい。

1 佐々木敏二、「日本人カナダ移民史」、1999.8、不二出版株式会社

戦後ドイツにおけるモンゴル学研究 ワルター・ハイシッヒとヘルマン・コンスタンの功績を追い求めて

白 莉 莉

(歴史民俗資料学研究科 博士後期課程)



2012年5月2日から派遣研究員として3週間ドイツのハイデルベルク大学を訪問した。派遣研究先にドイツを選定した理由は、戦後ドイツにおける著名なモンゴル

学者ワルター・ハイシッヒ (Walter Heissig) の研究功績を追い求め、戦前モンゴル地域から収集された古い地図や写本などを調査することであった。